

1. 最近の外資進出状況など

1/31、セブン・イレブンがカンボジアに上陸か

ロイター通信によると、タイの大手コンビニエンスストア運営会社 CP All が、カンボジアを含めた国々においてセブン・イレブンを展開するためのライセンス取得を申請したことがわかった。カンボジアの他にはミャンマーとラオスの 2 カ国があり、「この計画は CP All の事業拡大のための一部であり、2015 年に予定されている ASEAN 経済統合に備えてのものである」と、CP All 社長 Piyawat Titasattavorakul 氏は話している。

予定されている支店数などの詳しいことはまだ分かっていないが、CP All はセブン・イレブンのフランチャイズを行っている会社のうち世界で 3 番目に大きな会社である。会社の企業広報部に勤める Banyat Kamnoonwapana 氏は「今回の計画の話は Piyawat 社長から聞いていますがいつまでに出店するか、具体的な内容は知りません」と話した。プノンペンにあるデパートの Pencil Supermarket のゼネラルマネージャーである Svay Sovann Ratana 氏は、「セブン・イレブンが首都に出店するという話に関して、特になんの心配もしていない」と、話している。しかし、一方でコンビニを展開する Kiwi Mart のマーケティングマネージャーである Ly Bunsong 氏は、「セブン・イレブンのブランドネームは脅威です。私たちの会社はまだ 2 年前後の浅い歴史しかなく、セブン・イレブンのような急成長を遂げることができるかどうか心配です」と、話している。

2/08、カンボジアを訪問中の経団連の米倉弘昌会長は、フン・セン首相と会談し、「インフラ整備への協力を強化したい」と表明。

2/12、タイのシネマ・コンプレックス最大手 MAJOR は、日本のイオンがプノンペンに建設する大型商業施設に出店すると発表。映画館計7スクリーン、14レーンのボウリング場を開設する予定。投資額は約1億5千万バーツ。

2/13、世界的ブランドの受託生産をしているタイの TK ガーメントは、カンボジアでの工業団地造成計画を発表。タイ東部サケオ県に近いシンボン地区(タイ国境まで50km・タイ東部のレムチャパン港まで200km)に設置する。敷地面積は1600㎡、投資総額は6億バーツ。

2/14、日本電産のタイ現地法人は、ハードディスク駆動装置(HDD)用モーターの関連製品のベースプレートを生産する工場を、2月中にカンボジアのタイ国境沿いの地域で稼働させることを発表。タイではすでに人手不足であり、カンボジアは人手が豊富で、人件費がタイの1/3であるため、大幅なコスト削減が可能という。

2/25、プノンペン経済特区内へデンソーが参入

自動車部品を製造する日本企業のデンソーが、センサーに必要な部品の製造を行うためにカンボジアに工場を設立することがわかった。新しくできる Denso Cambodia は、2013 年 7 月にオープン予定で、プノンペン経済特区で 100 人ほどの労働者を雇う予定である。「会社はこのプロジェクトに、40 万ドルの投資を行なった」と話している。デンソーの取締役副社長である土屋総二郎氏は、「ASEAN における製品の需要を高めることにつながる」と、話している。

2. ストライキ関連情報

①1/16、Gladpeer Garment Factory 社でストライキ発生

プノンペンの Gladpeer 社工場にて、2000 人以上もの労働者がストライキ活動を行っており、「要求が満たされないようであれば国道 4 号線を封鎖する」と、会社に宣言している。カンボジアアパレル労働者民主組合連盟の代表 Ngeat Sokum 氏の話によると、労働者と工場役員間のミーティングが1/14の午後に行われたが、問題解決には至らなかったという。

抗議活動参加者達の要求には、H&M の商品を製造しているこの工場が、最低賃金を 61 ドルから 93 ドルに引き上げること、解雇された 2 人の労働者を復職させること、長期契約を使用することなどが含まれている。Gladpeer 社経営者である Va Chinda 氏のコメントはまだ得られていない。



一方、H&M の広報担当者 Hakan Andersson 氏は、メールの中で、「Gladpeer 社のただのバイヤーであるわれわれ H & M としては、この状況には介入することはできない。また、わが社は最近スウェーデンの貿易組合 IF Metall とともに、カンボジアでの労働状況改善のためのプロジェクトをスタートさせた」と、コメントしている。

②1/31、人権団体がウォルマート、H&M に対し非難声明

既に閉鎖されたプノンペン Kingsland 縫製工場において、労働者人権団体がウォルマートと H&M が、労働者の人権擁護責任を放棄しているとして非難している。これに対して、ウォルマート側は、「去年 7 月以降のオーダーはしていない」、H&M 側は、「2011 年以降は Kingsland 社とは一切取引をしていない」と回答しており、コミュニティ法教育センター(CLEC)と労働者情報センター(WIC)は、愕然とした様子で、「労働者達は、ウォルマート製品の製造は、2012 年の 9 月まで継続され、H&M 社の製品の寸法直しや品質チェックなども、2012 年 9 月まで行っていたと証言しています」と、主張している。

③Winson International 社他でもストライキ発生

自由貿易組合の Thorn Thol 氏によると、Kampong Speu 州にある Winson International 社工場で働いている 700 人以上の労働者が最低賃金を 70 ドルに引き上げることを求めてデモ活動を起こしている。工場の経営者である Kang Vannet 氏は、社会問題相が手配した 1/14 のミーティングにおいて、労働者の賃上げ要求の問題に取り組んでいく旨を発表した。また労働者達には仕事にもどるよう裁判所に命令を出してもらうつもりであることも話した。

また、他にもプノンペンの Meanchey 地区の International Fashion Royal 社、Takeo 州の Blossom Century 社でも、最低賃金を 93 ドルへ引き上げる事を求め、労働者がデモ活動を行っている。

さらに International Fashion Royal 社においては、1/17 に約 200 人の労働者達がトクトゥクに乗り込み、労務省へと向かい、賃金を 93 ドルまで引き上げることを要求するなどのデモを行った。

④工場での小競り合いが日常化か

Kampong Speu 州にある縫製工場で起こった小競り合いによって、抗議活動の参加者 2 人と、工場職員 3 人、合計 5 人が負傷した。こういった衝突によって、2012 年には組合メンバーや労働者など計 60 人以上が負傷している。

自由貿易組合の Vann Bun 氏は、「Winson International 社工場で起こった衝突の際に、パイプで殴られたことがある」と自分の体験を話し、「経営側の人間は、そういった場面をビデオに撮影しようとしていたみたいです。衝突の際、工場職員が私を鉄パイプで殴り、ほかにも何人かが襲われました」と続けた。しかし一方で、工場の経営者である Kang Vannet 氏は、「自分こそが頭を殴られ携帯電話を壊された被害者であり、自由貿易組合のメンバーを訴えるつもりだ」と話している。

カンボジアアパレル労働者民主組合連盟(C.CAWDU)は、「縫製工場では、2012 年に計 150 件もの労働争議が起こり、そのうち 20 件では怪我人が出ている。また 150 件中 115 件は、労働組合への不当な扱いが原因である」と、主張している。

⑤1/25、International Royal Fashion factory 社でストライキ発生

プノンペン Dangkor 地区にある International Royal Fashion 工場で働いていた 700 人以上の労働者が、1/24 に、Veng Sreng の道路を約 2 時間封鎖し、彼らの要求を容認しなかった工場主などへの不満を露わにした。

Federation of Friendship Unions の代表 Sieng Sambath 氏は、1/24、「現在の状況が続き労働者達の不満が解消されないまま放っておくと、暴力事件に発展してしまう可能性もあります。労働者側の怒りはとても大きいものです」と話す。

International Royal Fashion に勤めている匿名希望の管理者は、「裁判所が労働者達に 48 時間以内に仕事に戻るようにとの命令を出しているものの、労働者達はそれを拒んでいる。裁判所の命令をこれ以上無視するようなら、もはや彼らをわれわれの労働者としては扱えません」と、話した。

⑥1/21、GMAC がストライキ多発による受注影響を危惧

カンボジア縫製業協会(GMAC)の職員は、「最近勃発しているストライキにより、会社側はバイヤーへの商品発送が遅れてしまうことを危惧しており、現在、バイヤーの要求を満たすための解決策を探している」と、語っている。労働組合のリーダーは、「最近になって、7~8 の工場で働く 10,000 人以上の労働者が賃上げと労働環境改善を求めてストライキを起こしている」と話す。

GMAC の代表 Van Sou Ieng 氏は、「こういったストライキ現象はカンボジアの製造分野において良い影響を及ぼさない。このままストライキが継続すれば、今年は損失が出るでしょう。そしてこの損失は労働者の給料にも影響するだろう」と話した。

GMAC の Cheat Khemara 氏は、「ストライキの発生により工場側は納期を遅らざるを得なくなり、製造や発送に期限を定めた契約をしている場合、工場側にかなり不利になってしまう」と話している。

カンボジアアパレル労働者民主組合連盟代表 Ath Thon 氏は、「ストライキが製造分野に悪影響を及ぼしていることを



認めるが、ストライキは、労働者が工場主に労働法の遵守や賃上げを要求するための最終手段であった。今年最初の 20 日間で、少なくとも 7 つの工場において労働者達が賃上げと労働条件改善を求めたストライキを起こした。**去年の同時期に比べてストライキ件数は多くなっている。**ストライキの影響に関しては理解していますが、これは労働者達の責任ではありません。原因については「ストライキのうちおよそ 90 パーセントは、労働法を守らない雇用主が原因で起こっています」と述べている。

⑦1/30、GMAC への登録企業が 2 倍へ

カンボジア縫製業協会(GMAC)のメンバー登録を行なった会社が、去年のうちに 2 倍になった。「2011 年に加入した会社は 60 社であったが、昨年は 120 社の会社が新しくメンバー登録を行なった」、と GMAC 事務局は話している。

GMAC の経営マネージャーである Ly Tek Heng 氏は、「労働賃金の安さや市場へのアクセス、特惠関税での輸出などといった要因が、カンボジアの製造分野の成長を後押ししている」と話した。「しかし、違法ストライキや人材不足などがこの分野における課題である」、とも付け加えた。また「新しく加入した会社のうちの多くは中国や台湾、香港の企業になります。こういった国々では既に労働賃金は上がってきています。より多くの企業が、専門家を必要とするような付加価値のある製品に注目しています」とも話した。新しく加入した会社の投資額は、平均して 150 万 US ドルほどであり、すべての会社を合計するとおよそ 1800 万ドルにもなるとしている。

GMAC には現在、衣料・靴製品を製造する工場が 470 ほど登録している。また、これらの工場が雇う労働者数は合計で 450,000 人にも及び、そのうち 80% は女性である。

今月からタイ国内のすべての労働者の 1 日の最低賃金は 10 ドル(300 バーツ)となり、また、ベトナムにおいては最低月収が 2400 万ドン(113 ドル)になる。それに比べてカンボジアの縫製工場では働く人々の最低賃金は、月に 61 ドルである。しかし実際労働者にはそれ以外に奨励金などが支払われており、最低賃金とこれらを足すと月に 83 ドルほどの収入になる。カンボジアアパレル労働者民主組合連盟の代表 Ath Thorn 氏は、「この縫製業従事者の増加によって、カンボジアが低賃金の国であることに注目を集めることができる」、と話している。「2011 年 39 件だったストライキの件数が去年 61 件に増加した、しかしこれは国のイメージにそれほど深刻な影響を与えていない」、とも彼は話す。労働者がストライキを行うのは、賃上げと労働環境の改善などといった目的に限られているからである。更に Thorn 氏は「労働者の人権のことを考えている本物の投資家達は、カンボジアにお金をあずけることを厭わないでしょう」と述べた。

GMAC の Heng 氏は、「より多くのカンボジア人労働者が、組織のリーダーとして活躍できるはずである」、と話しており、「それこそが産業の発展である。しかしながらカンボジア人のなかで、ファッション分野のデザインやパターンメイキングについて専門家と呼べる労働者はいまだいません」と彼は話した。

⑧1/30、ベテラン縫製工の不足状況

人材派遣会社 Human to Human は運営 1 年目にして、労働者の派遣がいかにも難しいのか、と言う苦境に直面しているという。この派遣会社は、顧客の会社にスキルのある労働力を派遣し、労働者には無料でトレーニングを行い、その結果、高い賃金を獲得できることを保証している。しかし労働者の数がもっと必要となっている。



Chap Chamreunkunkoet 代表は縫製業の労働者に対しても、「派遣した労働者達がきちんと会社のニーズを満たしてくれることを保障したいのです」と話す。

「だからこそ、労働法や人身売買、健康・安全問題に関するトレーニングも施しているのです。会社は無料かそれに近いただ同然のトレーニングセッションを、労働者達に受けさせ、仕事に関して高い能力を習得することを期待している。しかしそれに見合う人材を見つけるのは難しいのです。しかしトレーニングを行うことによって、雇用主となった人々に、労働者が仕事の際に本当に知っておくべきことを教えることができます」と、Chap 氏は話す。

プノンペン国際空港の近隣にある Human to Human 社の小さなオフィスでは、現在 8 人が働いている。顧客の多くは縫製会社であり日本や韓国、アメリカ、マレーシア、香港や中国などの企業である。派遣会社には、特殊技能を持つ人材がおよそ 1000 人と、そうではない労働者が 1000 人ほど登録している。Chap 氏は、「Human to Human は未だ顧客の供給に追いついていない。特殊技能を持った人々は少なくとも 1 ヶ月の訓練を行なう必要があるため、現在にはスキルのない労働者のみしか派遣できません。その上、トレーニングでスキルを身に付けた労働者達は、より多くの賃金を求めてたびたび会社を去ってしまうと言う問題点にも直面しています」と話す。

カンボジア人材育成センターの 2011 年 2 月のレポートにおいても、次のように書かれている。「主にスキルのないカ

ンボジア人労働者を雇っている会社は、トレーニングに対して2つのデメリットを持っていると考えている。まずひとつは、スキルがない労働者ほど賃金を安く抑える事ができ、それがより重要であるということ。そして、もうひとつは訓練を終えた労働者が会社を去ってしまう可能性を考えれば、投資が無駄に終わってしまう、ということであった」。

カンボジアに 270 以上もある工場のなかで、カンボジア人によって経営されているのはたった 10 以下であると、USAID は報告している。Chap 氏は、この数字が変化してくれることを望んでいる。「カンボジア人は外国の起業家達に学び、そして自らも工場経営という挑戦をしてほしいのです」。

以上

3. 速報：大型ストライキ情報

◎2/14、カンボジア東部スヴァイリエン州、ベトナム国境沿いのマンハッタン経済特区で**2万人規模**のスト

マンハッタン経済特区で、賃上げや待遇改善を求めて、労働者約2万人がストライキ。同特区では、日系企業13社が進出しているという。今のところ、日系企業にはストは起きていない模様だが、余波が及ぶのを警戒し、一時的に操業を停止している。

※次回通信で、現場検証後、詳細をお届けする予定。

以上